

ISSN1343-4837

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集

高知県香美郡土佐山田町

林ノ谷古窯跡発掘調査報告書

自然崩壊に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2003. 6

土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町

林ノ谷古窯跡発掘調査報告書

自然崩壊に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2003. 6

土佐山田町教育委員会

序 文

土佐山田町植、新改、須江、入野、大法寺地区には7世紀から10世紀にかけての窯跡群が四十数か所確認されています。その窯跡群の一つには高知県でも最古の寺院に属する比江廃寺跡の瓦をはじめ、土佐国分寺の瓦など古代の寺院の甍を飾った屋根瓦、古代の土器である須恵器など古代の土佐国内では一大窯業生産地として繁栄した所です。

この度、文化庁、高知県教育委員会にご協力いただきこの窯跡群の一つである林ノ谷古窯跡の遺構の残存状況、年代確認のための調査を実施しその調査成果を今回、報告書として刊行いたしました。

本書が古代土佐国における窯業生産の研究の一助となれば幸いです。本調査にご協力いただきました関係者、関係機関に対しまして厚くお礼申しあげます。

平成15年6月30日

土佐山田町教育長 原 初 恵

例　　言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成6年度から平成8年度に実施した林ノ谷古窯跡発掘調査報告書である。
2. 林ノ谷古窯跡群は、高知県香美郡土佐山田町新改字林谷338番地他に所在する。
3. 当該地の試掘調査及び発掘調査は、第1次調査は1号窯跡を平成6年7月14日から平成6年9月16日、調査面積65m²、第2次調査は第3号窯跡を平成7年7月14日から平成7年9月13日、調査面積40m²、第3次調査は3号窯跡を平成8年7月29日から平成8年8月27日、調査面積60m²と3ヶ年にかけて調査を実施し、資料整理・報告書作成を平成15年度に行なった。
4. 調査体制は以下のとおりである。

調査主体 土佐山田町教育委員会

調査事務 土佐山田町教育委員会

平成6・7年度	平成8年度	平成15年度
教育長　　門脇 昭	教育長　　門脇 昭	教育長　　原 初恵
社会教育課長　前田隆明	社会教育課長　前田 智	社会教育課長　山崎泰広
調査事務　　中山泰弘	調査事務　　中山泰弘	調査事務　　小林麻由
調査担当　　中山泰弘	調査担当　　中山泰弘	調査担当　　中山泰弘

5. 発掘調査にあたっては、地元新改地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団高知県立埋蔵文化財センターの協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員 伊藤 仁、佐々木龍男、竹崎芳子、小松一仁、池 宣弘、中沢英子、川端清司（皇学館大学学生）、熊沢英武（立命館大学学生）、山岡正明（第一経済大学学生）、田村和之（高知大学生）、井上郁雄

整理作業員 伊藤 仁、中村千代、岡林 光、竹崎寛将、井上博恵、高橋加奈、宗石祥一、風間俊秀（高知工科大学学生）、山口 正（高知工科大学学生）

6. 本書の執筆・編集は中山が行なった。

7. 林ノ谷窯跡の調査、整理作業では、森田尚宏（高知県教育委員会文化財課埋蔵文化財班長）、松村信博（高知市立朝倉中学校教諭）を始め数多くの方々から、助言、御教示をいただいた。併せて深く謝意を表したい。順不同、敬称略

8. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。なお、遺物についての注記は、「94.95.96-YSH」を使用する。

本文目次

第Ⅰ章	遺跡の位置と地理的・歴史的環境	1
	1. 地理的環境	1
	2. 歴史的環境	3
第Ⅱ章	調査に至る経過と調査方法	6
第Ⅲ章	遺構と遺物	8
	遺物観察表	19
第Ⅳ章	総括	22

挿図目次

図1	土佐山田町位置図	2
図2	周辺の遺跡分布図	5
図3	林ノ谷古窯跡場内和郎氏原図	6
図4	林ノ谷古窯跡周辺地形図	7
図5	香長小学校保管遺物実測図	10
図6	林ノ谷古窯跡1～3号実測図	12
図7	林ノ谷1号窯跡 実測図	13
図8	林ノ谷2号窯跡 実測図	14
図9	林ノ谷3号窯跡 実測図	15
図10	出土遺物実測図 (94-17 YH)	16
図11	出土遺物実測図 (95-19 YH)	17
図12	出土遺物実測図 (96-19 YH)	18
図13	土佐山田町古代窯跡分布図1	23
図14	土佐山田町古代窯跡分布図2	24

表目次

表1	林ノ谷窯跡周辺の遺跡一覧	5
表2	遺物観察表1	19
表3	遺物観察表2	20
表4	遺物観察表3	21
表5	土佐山田町の古窯跡一覧表	25

写真図版目次

写真1 遺構1	27
写真2 遺構2	28
写真3 遺構3	29
写真4 遺構4	30
写真5 遺物1	31
写真6 遺物2	32
写真7 遺物3	33
写真8 遺物4	34
写真9 遺物5	35
写真10 遺物6	36

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

土佐山田町は高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、劍山山系の白岳山(1,770m)の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波国への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達し⁽¹⁾、土佐山田町で流路を南に変える。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縱断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野⁽²⁾、山田野⁽³⁾と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。

標高は扇顶部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では10m~15mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新開扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部⁽⁴⁾、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部⁽⁵⁾で確認されている。また縄文時代の遺跡もほぼ同じ位置に所在する⁽⁶⁾。新開扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群(縄文時代~近世)⁽⁷⁾を始め大篠遺跡(弥生時代)⁽⁸⁾が分布する。また、条里制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており条里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も數本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性冲積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壤は多湿黒ボク土壤であり、層の厚さは20cm~50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村の景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。

灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流域と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となった郷士屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もその景観の名残がみられる。台地面の長軸(北東~南西方)には沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

- (1)『南国市史』上巻 南国市教育委員会 1979
- (2)『野市町史』上巻 野市町教育委員会 1992

- (3)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979

(4) 佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。

(5) 新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。

(6) 刈谷我野遺跡（香北町）などがあげられる。

(7)『田村遺跡群 高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊 1986 高知県教育委員会

(8) 註(1)と同じ

参考文献

『土佐山田町史』 土佐山田町教育委員会 1979

『角川 日本地名大辞典 39高知県』 角川書店 1986



図1 土佐山田町位置図

2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、人々と人の営みを台地に刻みつけている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡⁽¹⁾の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡⁽²⁾と非常によく似ている。続く縄文時代では、新改川の河岸段丘上に立地する闇キ丸遺跡⁽³⁾より早期押型文土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡⁽⁴⁾からは、晩期の土器⁽⁵⁾に基と突帶文土器が出土している。北部山間部に所在する飼古庄岩陰遺跡⁽⁵⁾からは早期押型文土器、厚手無文の葛島式土器、中期の船元Ⅱ式土器、後期の彦崎KⅡ式土器とともに多量のサヌカイト製の石器が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上に林田シタノチ遺跡⁽⁶⁾が存在するが、ここではピット状遺構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後後に属する龍河洞穴遺跡⁽⁷⁾が最古である。この遺跡は金山石灰岩でできた三宝山（322m）の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄鏃、石錐、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、瑠璃製勾玉等の装身具、貝類、獣骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキⅡ式土器が出土している。龍河洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡⁽⁸⁾、雪ヶ峰遺跡⁽⁹⁾、影山遺跡⁽¹⁰⁾がある。中期後後に属する遺跡は多く、原遺跡⁽¹¹⁾、原南遺跡⁽¹²⁾からは堅穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘堀柱建物跡等、集落を構成していた遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡⁽¹³⁾が存在する。これらの土器群はヒビノキⅠ～ヒビノキⅢ式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。

弥生時代も後期になると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表される後期後後に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡⁽¹⁴⁾では、弥生時代後期後半の堅穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡⁽¹⁵⁾が存在する。ここからは堅穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄鏃が出土している。

古墳時代には、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳⁽¹⁶⁾は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯群を挙げることができる。奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数ヶ所確認されている。窯跡の中には比江廃寺跡⁽¹⁷⁾の瓦を焼成したタンガン遺跡⁽¹⁸⁾や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡⁽¹⁹⁾も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡⁽²⁰⁾、須江北遺跡⁽²¹⁾からは官衛的壠立柱建物跡や多量の須恵器、土器等が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区はその西方2kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里制遺構⁽²²⁾を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地⁽²³⁾と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏⁽²⁴⁾が建久4年（1193）に土佐国へ入国以来勢力をのばし、楠目山田城を本拠⁽²⁵⁾に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山⁽²⁶⁾による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町⁽²⁷⁾として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域として

発展し、今日に至る。

註

- (1) 西谷遺跡『土佐山田史談』第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題（VI）」2000
- (2) 『奥谷南遺跡I』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999
- (3) 『開キ丸遺跡 新改中部地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 2002
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5) 『鶴古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会 1983
- (6) 『林田シタノヂ遺跡II 農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1993
- (7) 『龍河洞』高知県教育委員会 1959
- (8) 『土佐山田町史』P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じ
- (10) 註8と同じ
- (11) 『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡－』高知県教育委員会 1982
『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡II－』第25集 高知県教育委員会 1984
- (12) 『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団 1991
- (13) 『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会 1977
- (14) 『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集) 土佐山田町教育委員会 1990
- (15) 『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1985
- (16) 『伏原大塚古墳』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集) 土佐山田町教育委員会 1993
- (17) 註8と同じ
- (18) 『高知県文化財調査報告書第16集 高知県比江廃寺跡』高知県教育委員会 1970
『高知県文化財調査報告書第33集 比江廃寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20) 『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会 1978
- (21) 『土佐山田北部遺跡群－山田北部県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書－』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)
- (22) 註21と同じ
- (23) 岡本健児『土佐神道考古学5』『土佐史談』第120号
- (24) 註8と同じP217
- (25) 註8と同じP248
- (26) 註8と同じP354
- (27) 註8と同じP365

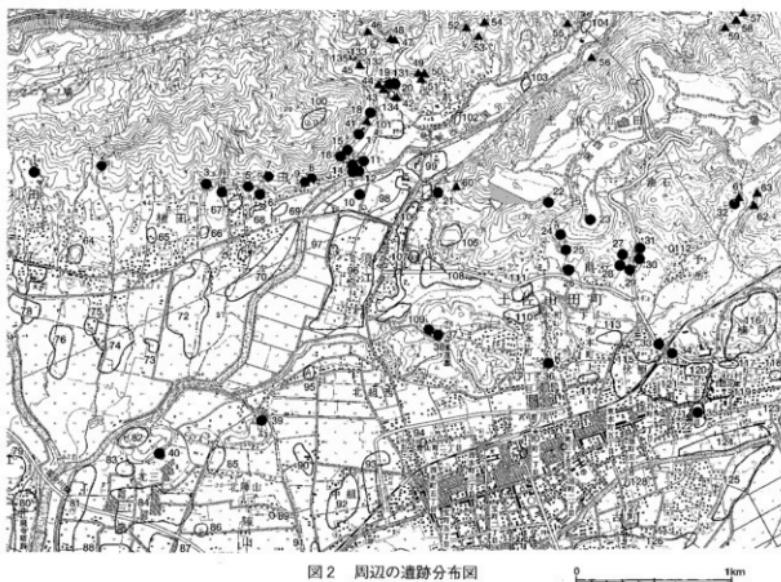


図2 周辺の遺跡分布図

0 1km

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	中山田古墳	古墳	35	伏原大塚古墳	古墳	69	東川田遺跡	弥生～六世紀	103	三山田古墳	平安
2	高松古墳	*	36	八王寺古墳	*	70	改神母遺跡	古墳～平安	104	入野山遺跡	平安・小室
3	横田古墳群	*	37	前山1・2号古墳	*	71	久次土原遺跡	中世	105	種村城跡	中世
4	西久保古墳	*	38	前山3号古墳	*	72	ハザマダ城跡	古墳～平安	106	種カドヲ遺跡	弥生・古墳
5	次郎ヶ谷西古墳	*	39	降山古墳	*	73	鎌ヶ田遺跡	*	107	種南土原遺跡	平安・中世
6	次郎ヶ谷東古墳	*	40	三島山古墳	*	74	泉ヶ内遺跡	*	108	西ケリドリ遺跡	弥生～近世
7	田村氏之塙	*	41	西ノ内廻跡	*	75	神ノ土原遺跡	中世	109	モジカラワ遺跡	*
8	龜ヶ谷2号古墳	*	42	小山田1号墓跡	古墳・奈良	76	白陽田遺跡	古墳～平安	110	山ノ丸廻跡	中世
9	龜ヶ谷2号古墳	*	43	小山田2号墓跡	*	77	中ノ土原遺跡	中世	111	種ノ子牛遺跡	*
10	横江川フタワ古墳	*	44	小山田3号墓跡	*	78	前畠遺跡	平安～中世	112	山田氏代墓所	*
11	新荻古墳	*	45	西谷1・2・3号墓跡	奈良	79	比江山城跡	中世	113	メカガニ遺跡	弥生～中世
12	新荻2号古墳	*	46	東谷松本古墳跡	奈良・平安	80	比江尻守跡	鬼鳥・奈良	114	長谷川先祖跡	古墳～平安
13	新荻3号古墳	*	47	東谷1号墓跡	*	81	源ノ上遺跡	弥生～平安	115	伏原遺跡	弥生～平安
14	新荻4号古墳	*	48	東谷2号墓跡	*	82	神谷母遺跡	古墳	116	種日城跡	中世
15	椎山1号古墳	*	49	林ノ谷1号墓跡	*	83	三島城跡	中世	117	ひびの木人洞遺跡	弥生～云々
16	椎山2号古墳	*	50	林ノ谷2号墓跡	*	84	三島遺跡	弥生～平安	118	丹神山遺跡	弥生～中世
17	西ノ内1号古墳	*	51	林ノ谷3号墓跡	*	85	三町遺跡	古墳～中世	119	ひびの洞遺跡	弥生・古墳
18	西ノ内2号古墳	*	52	大谷1号墓跡	*	86	白山遺跡	古墳～平安	120	ひびの馬の神は跡	弥生～中世
19	小山田2号古墳	*	53	大谷2号墓跡	*	87	水道遺跡	弥生～平安	121	ひびのリサイクル施設	弥生～近世
20	小山田3号古墳	*	54	人谷3号墓跡	*	88	鶴屋遺跡	奈良～小仏	122	大冢遺跡	*
21	タンガン古墳	*	55	八ノ母遺跡	平安	89	光石北嶺山遺跡	平安	123	大西土原遺跡	弥生
22	深坂古墳	*	56	横七ガイ墓跡	古墳～奈良	90	西酒の西遺跡	古墳～平安	124	梅日遺跡	弥生～近世
23	秋波古墳	*	57	人佐寺・汎田遺跡	古墳	91	山田三ツノ西遺跡	*	125	種町前瀬跡	*
24	秋波古墳	*	58	大尾寺ヘスラツギヨリ遺跡	奈良・平安	92	山田二ツ又瀬跡	*	126	康遺跡	弥生～近世
25	中沢古墳	*	59	大尾寺ヘスラツギヨリ9号墓跡	奈良	93	山田二ツ又東遺跡	弥生～中世	127	六町西遺跡	弥生～平安
26	鷹渕古墳	*	60	タンゴノ瀬跡	飛鳥	94	谷脇蓬遠跡	近世	128	古町北遺跡	弥生・古墳
27	那ヶ谷古墳	*	61	下匠遺跡	吉備	95	野中寺社	近世	129	公儀の井戸2	近世
28	飛行山1号古墳	*	62	長谷山1号墓跡	平安	96	豊江上段遺跡	古墳～近世	130	公儀の井戸1	*
29	飛行山2号古墳	*	63	長谷山2号墓跡	*	97	豊江駅跡	平安	131	赤山本山入寺跡	中世・近世
30	母神古墳	*	64	東ノ土原遺跡	占堀～中世	98	豊江北遺跡	占堀～平安	132	藤原寺跡	*
31	大穴神社古墳	*	65	数田土原城跡	*	99	栗原神社遺跡	奈良～中世	133	藤原寺跡	*
32	大穴神社北古墳	*	66	寺中遺跡	古墳～平安	100	改正田見の城跡	中世	134	小山田遺跡	縄文・古代・中世
33	与岳古墳	*	67	西野遺跡	奈良～小仏	101	南ヶ内遺跡	弥生～中世	135	西谷遺跡	旧石器
34	小倉山古墳	*	68	辺谷口遺跡	古墳～平安	102	御市町山遺跡	中世			

表1 林ノ谷窯跡周辺の遺跡一覧

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

1. 調査に至る経過

土佐山田町新改、須江、植、入野、大法寺地区には7世紀から10世紀にかけての窯跡が所在している。窯跡の実数は不明であるが主に須恵器窯が主流で、瓦窯は僅かである。瓦窯では植タンガン窯跡が南国市に比江に所在する比江廃寺跡の軒丸瓦と同形であり、また東谷3号窯跡の平瓦が土佐國分寺と同一であることが確認されている。また、近年小山田遺跡は古代窯に伴う灰捨場の二次堆積層より多量の須恵器、布呂瓦が出土しておりその中には鴨尾の残片が発見されている。これらの窯跡群を総じて須江古窯跡群と呼称している。その窯跡群のなかで林ノ谷に所在するのが3基の窯より成る林ノ谷古窯跡群である。

土佐山田町新改字林谷に所在する林谷古窯跡群は昭和10年代に発見された。発見当時は3基とも天井部、焚口、煙出しを含め完全に残っていたが、戦後の食糧難による農地開墾時に一部天井部を残しながら破壊された。その後、遺跡所在地は植林され天井部は崩壊し、現在、窯跡は側壁部、底部が残存している。しかしながら植林の木々も生長し、窯跡も數十年の風雪により側壁部、底部ともに形状が少しづつ破損が進んでいることから現況の遺構記録、及び年代特定のための試掘確認調査を実施した。

註

(1)『土佐山田町史』P126~154 土佐山田町教育委員会 1979

2. 調査の方法

発掘調査は任意によるトレンチ調査区を設定し、表上及び遺構検出面、遺物包含層直上までの掘削を人力により精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等について、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。

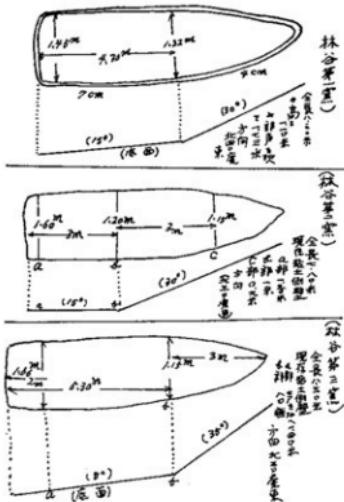


図3 林ノ谷古窯跡場内と郎氏原図

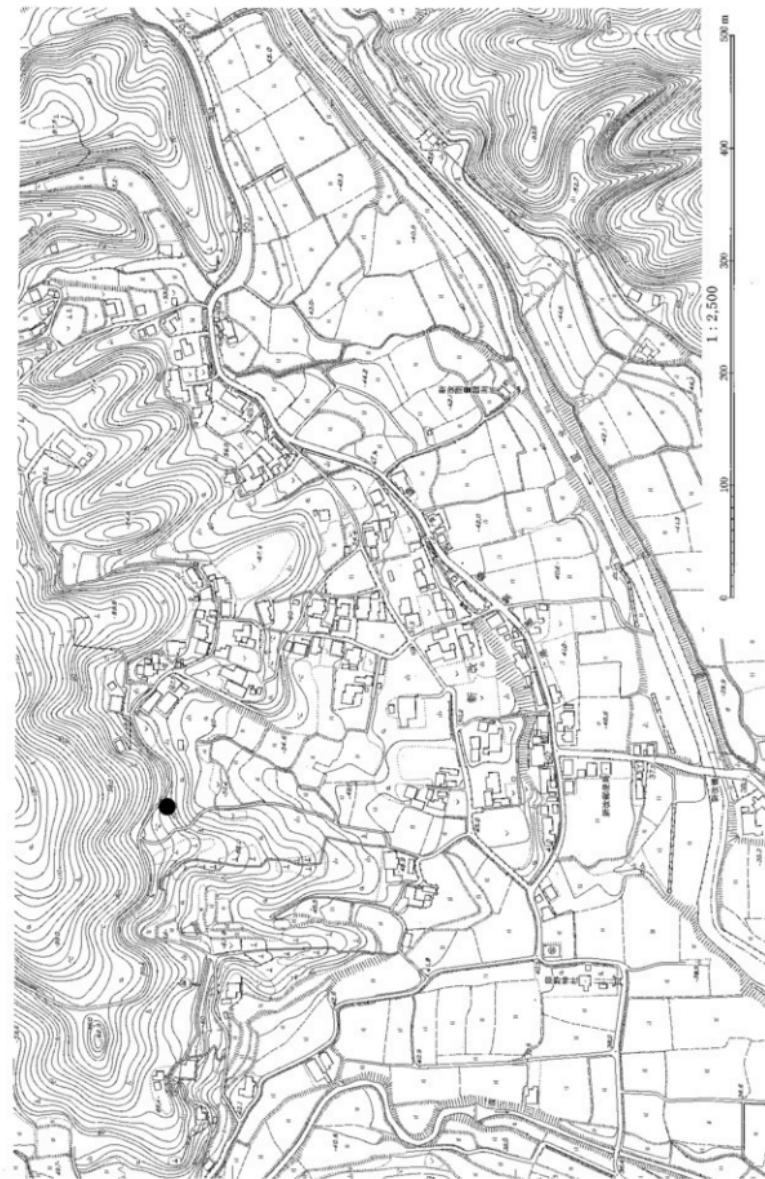


図4 林ノ谷古窯跡周辺地形図

第三章 遺構と遺物

林ノ谷窯跡群は町道新改天行寺線（229号）下の山麓南側斜面の植林に3基からなる。植林前は数段にわかれた農地であった。

上の道路下にある窯跡を1号窯跡、さらに下段に並列に並んで存在する窯跡を東側から2号窯跡、西側に隣接する窯跡を3号窯跡と呼んでいる。

1号窯跡

1号窯跡の現況は緩やかな斜面に造られ床面は土砂に埋没し残ってはいたが側壁、天井部はなかった。発掘調査により窯全長約9mで燃焼室、焼成室の明確な区分は明瞭ではない。側壁部の最大幅は約2mで、焼成室の平面プランは舟底状をなし、傾斜角度は焼成室に近い付近で35度、焼成室中央部で30度である。天井部は破壊され不明である。側壁は一部残存する。側壁部は粘土と砂及びワラを混ぜて形成され茶褐色、青灰色をしている。煙出し部分も破損しており不明である。窯は半地下式構造の登窯である。遺物は須恵器片が出土している。

2号窯跡

2号窯跡は3号窯跡に隣接して構築されている。窯は半地下式登窯の構造をもつ。窯は完形ではなく側壁の一部を残し天井部は崩壊している。窯跡は全長約9m、側壁部の最大幅約1.8m、底部は舟底状をなし焚口部分は崩壊し、明瞭でない。煙出し部分も崩壊している。窯の傾斜角度は窯中央部で35度、煙出し部分で38度をなす。床面は焼成が良好な保存状態は良好である。側壁は粘土、砂、ワラを混ぜて構築されている。焚口部分に小トレンチを入れ窯跡底部の断面を観察したところ窯底部の厚さはわずか5cmで2から3回の修復が確認できる。遺物は窯跡床面より須恵器片が出土している。

3号窯跡

3号窯跡は2号窯跡の西側に隣接している。窯は半地下式登窯の構造をもつ。窯は完形ではなく側壁の一部を残し、天井部は崩壊している。側壁部分もごく一部が残存している。窯跡は全長約8.5mで側壁最大幅は約2mである。窯跡の形状は舟底状をなしている。焚口部分は明瞭でない。煙出し部分は崩壊しており不明である。窯の傾斜角度は中央部で約34度、煙出し部分で38度を測る。残存している床面、側面は粘土、砂、ワラを混ぜて構築している。焼成は良好で床面は茶褐色、側壁部分は青灰色をなしている。焚口部分に小トレンチを入れ窯跡底部を観察したところ修復は2回もしくは3回程度と観察できる。

(1) 出土遺物

古代の窯跡に関係する遺物は3基の窯跡からは図示できる遺物は発見されていないが窯跡の南側に所在する灰捨場において4箇所のトレンチ調査を実施した。以下、図示できる遺物について分類し概要を報告する。

第1分類 須恵器（碗）（遺物観察表番号 1～18）

碗の底部は回転窓により切り離され、しっかりしたハの字状の張付き高台または、シャープな高台がつく。胴部は斜上方に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部はやや外反し、丸くおさめる。胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して口径12～14cm内外、器高3.8cmから4.5cm内外である。底部内面はナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整が施されている。一部焼成不良もあるが全体として焼成は良好な遺物が多い。

第2分類 須恵器（杯）（遺物観察表番号 19～25）

杯の胎土は精選された粘土で底部外面は回転窓削りで底部から外上方に上がり胴部でやや立ち上がり、口縁の端部は丸い。内外面共にロクロによる回転横ナデによる調整が施される。底部は平底である。また底部に巻き上げがみられるものがある。口径は10～15cm程度である。

第3分類 須恵器（蓋）（遺物観察表番号 30～52）

胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は窓と横ナデによる調整がみられる。口縁部内面にかえりを持たない。天井部は扁平なボタン状や宝珠のつまみがつく。天井部は一段高く膨らみ、膨らみ部分を窓削りして平らに仕上げている。平らな頂部から口縁部はゆるやかに口唇部に下がる。蓋の口径は12cmから15cm内外である。

第4分類 須恵器（蓋）（遺物観察表番号 35・36）

胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は一部、窓による調整が見られる。天井部は一段高く膨らみ窓による平らな調整により仕上げている。扁平なボタン状のつまみがつく。36は大型の蓋でつまみ部分は欠損している。

第5分類 須恵器（盤）（遺物観察表番号 28・29）

胎土は精選された粘土である。内外面にもロクロによる回転横ナデが施されている。底部は回転窓削りがみられ、平底である。

第6分類 須恵器（甕）（遺物観察表番号 59～63）

胎土は精選された粘土である。中に若干、石英、小石、砂を含むものがある。内外面ともにロクロによる回転横ナデ調整が施されている。内面に青海波文や外面に叩き目がみられるものがある。口縁部に1本から3本の凹線をめぐらし、三角状をなす貼付け突帯、櫛描波状文や窓による単線波状文を施すものがある。

第7分類 須恵器（高杯）（遺物観察表番号 46）

胎土は精選された粘土で内外面にはロクロによる横ナデがみられ、脚部裾はラッパ状に広がるものやベタ状に広がるものがある。杯部は外反して斜上方に向かって立ち上がる。口唇は丸くおさめるものと外反するものがある。

第8分類 須恵器(杯)(遺物観察表番号 69)

胎土は精選された粘土で内外面にロクロによる横ナデ調整が施される。底部は平底で中にはベタ高台もある。回転糸切りに範による取り上げ痕が認められる。低温による焼成か土師質状のものがみられ、焼成による歪みのあるものも多い。口径は13cmから16cmのものが多い。器高は5cmから6cm内外のものが多くみられる。

第9分類 須恵器(皿)(遺物観察表番号 26・27)

胎土は精選された粘土である。外面にロクロによる回転横ナデ調整がみられる。底部は平底で底部より斜上方に向かって立ち上がる。

第10分類 瓦(平瓦)(遺物観察表番号 65)

胎土は精選された粘土である。凸面は荒目の布目痕がみられるものと範調整がみられるものがある。凹面は細い布目痕が残る。

(2) その他の遺物

写真番号

窯壁の破片で指圧ナデがみられる。焼成は硬質で良く薬のあった空洞がみられ、粘土と薬を混ぜて窯本体を構築していたと考えられる。

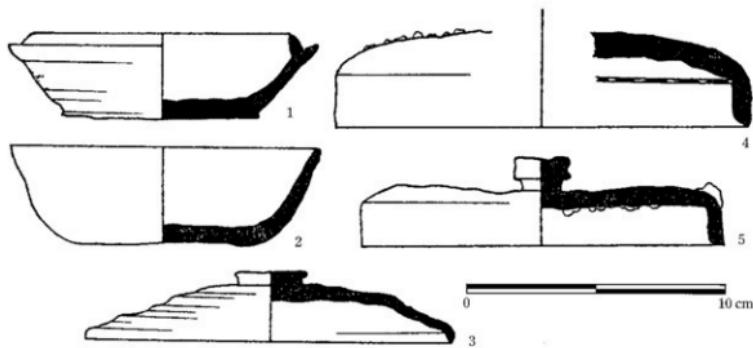


図5 香長小学校保管遺物実測図

林ノ谷窯跡発掘(参考1)

土佐山田町立香長小学校に林ノ谷窯跡出土遺物が以前から保管されていたが現在、土佐山田町教育委員会に移管し、保管している。遺物は須恵器の杯、杯の蓋、壺の蓋、甕胴部破片である。これらの須恵器はどの窯跡に伴つて出土したかは不明である。1の杯は7世紀後半に位置づけられる。他の遺物は8世紀後半と考えられる。今回の発掘調査からは1の杯にあたる7世紀後半の遺物は発見されていない。今後検討を要する。

堀内和郎「土佐に於ける原史時代の陶工・瓦工址の発見」

『土佐史談』第58号所収 昭和12年

新改部落林谷

ここに三個の窯址を発見し且つ発掘を行なった。

窯の形式は何れも登窯で、丘陵の傾斜面をかな穿ちて設けられたもので現在の地表は幾段もの畝に開墾され其の畝には約七十年程前に植えられた蘆の木が多数ある。階段状の畝の先端には茶の木が列をなして植えられてある。今仮に最初に発見した向かって中央を第一窯としに次に発見した向かって右を第二窯、最後の向かって左にあるものを第三窯として記述することとする。三個共に火口は南々西に面する。平面は何れも舟底形を呈し長さ八一九米前後である。下部の幅約一・五〇米、高さは一・五〇米位と思われるが天井が破壊されているため詳細は不明である。内部の壁面は粘土にワラを切ったものを混ぜ更に細砂を加えて堅く打ち固めたもので厚さは七センチ内外である。色は祝部土器と同じ鼠色を呈している。天井の破片を見るに小さな円筒形の並んでいたところから考えると小木とか竹の様なもので半円形をつくり、それに粘土を打ちつけて造ったものと思はれる。

火口は保存困難な場所で第一、第三窯は破壊されているが第二窯は比較的明瞭に残っている。煙口は三個共に存し第三窯に就いて見ると直徑四十八厘米で稍稍円形を呈している。殊に第一窯の如きは此の煙口から下方役一・五〇米の間は天井が現存し、窯の天井部が穹窿状を呈する事を証明することが出来る。猶三個の窯址の形については実測の結果を示すこと第三図の如くである。発見遺物は三個の窯共に大体共通であるが、祝部土器に属する陶器類が多く厚手のものの堆の破片には裏面に粗でたいたい跡が存し、甕の類はその破片より原形に復元すれば水三一四斗も入れ得ると思はれるものもある。又薄手の陶器類破片は最も多く、その質堅く殊に裏面に溝紋があるものもある。これは此の地方の古墳副葬品とのよく似て居る。溝紋のなき無地の盤の類が多いが日常生活に用いられたもので極めて多く製造された事を思はしめる。又窯址発見遺物に共通の溶着陶器片や、窯址に特有な生焼けのもの、歪形のもの、半品品、陶涙、壁片、等がある。又陶器の表面には櫛を用いて無数の横線を入れたものや、直線による色々の模様があるものもある。一部の陶器片には釉を用いたものもある。

第一、第二窯からは土師器片が可也出土しているが当然祝部よりも古くあるべきものなれども、祝部と共に併行して製造せられていた事を物語るものであろうか。

木炭は所々に発見されるが特に焚口に近い部分に多く認められる。焼けた石塊はこの登窯が階段式でないために器物を並べるときの台や支へ物とせられた事であろう。

特殊出土品としては付近の灰捨場と思われるところから出土した長さ七センチ、白墨大のものがある。両端に穴が穿たれたものもあれば、穴の貢いてないものもある。多分余枝として漁業に用いる「オモリ」を作ったのではないか。又三十センチ位の丸い鐵の様なものがあるがこれも陶器の口部などに用ふる未成品ではないかと思ふ……。

この窯址より出土する破片が大体この付近の古墳より出土するものと同質であることによって之等古墳と時代を同うするものと思われるが、中には古墳出土品よりも新しいと思われるものもある。大体時代を平安朝と推定するが、土佐は文化退廃したため大室の制がしかれて後も古墳もつくられるし、又人化の政により氏族制度が破れて後も、陶邑はつづいて可也おそらくまでここで窯業をつづけたでなかろうか。此の点について更に研究を重ね、大家の考證をお願い正確な発表を後日に譲りたいと思う。

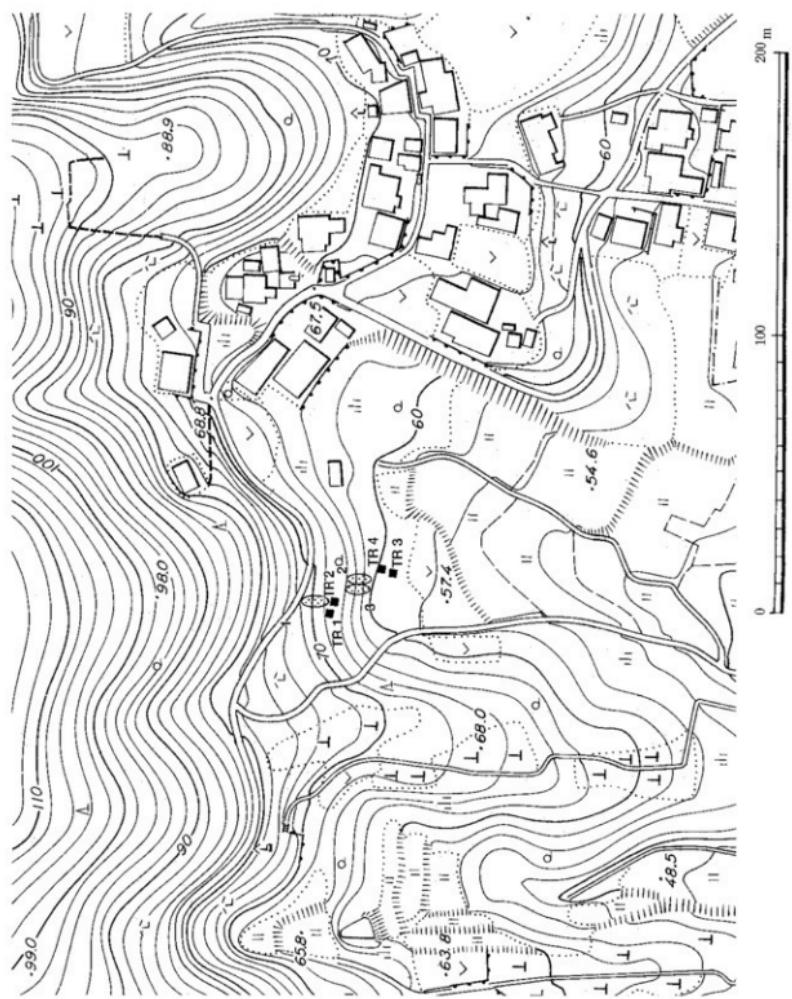


図6 林ノ谷古窯跡1～3号実測図

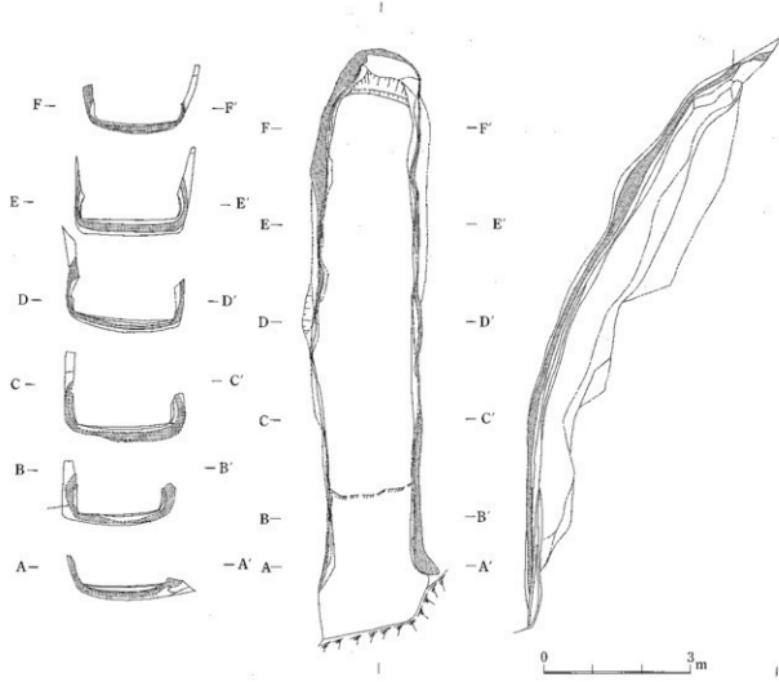


図7 林ノ谷1号墓跡 実測図

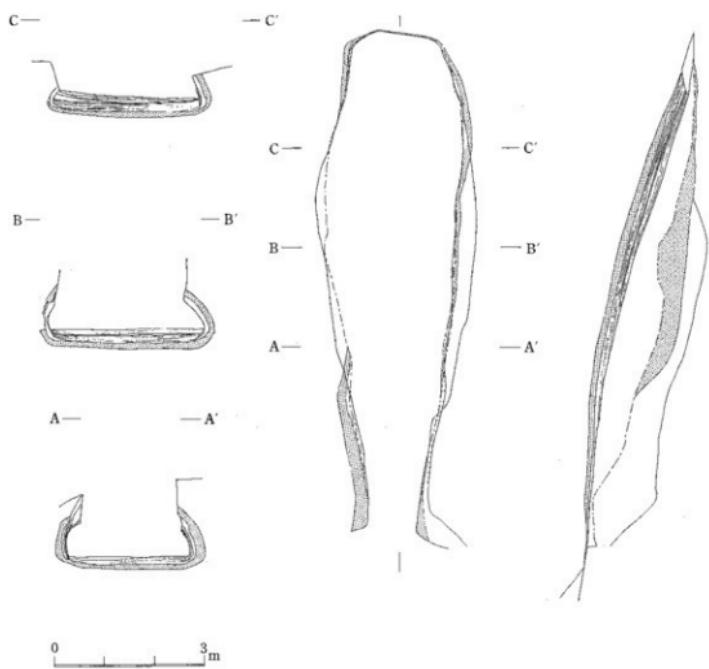


図8 林ノ谷2号窓跡 実測図

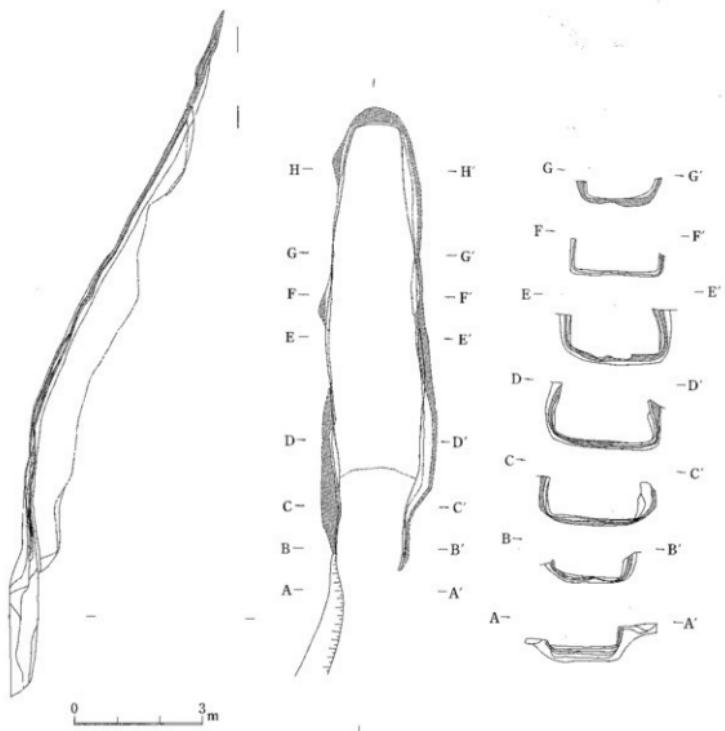


図9 林ノ谷3号室跡 実測図

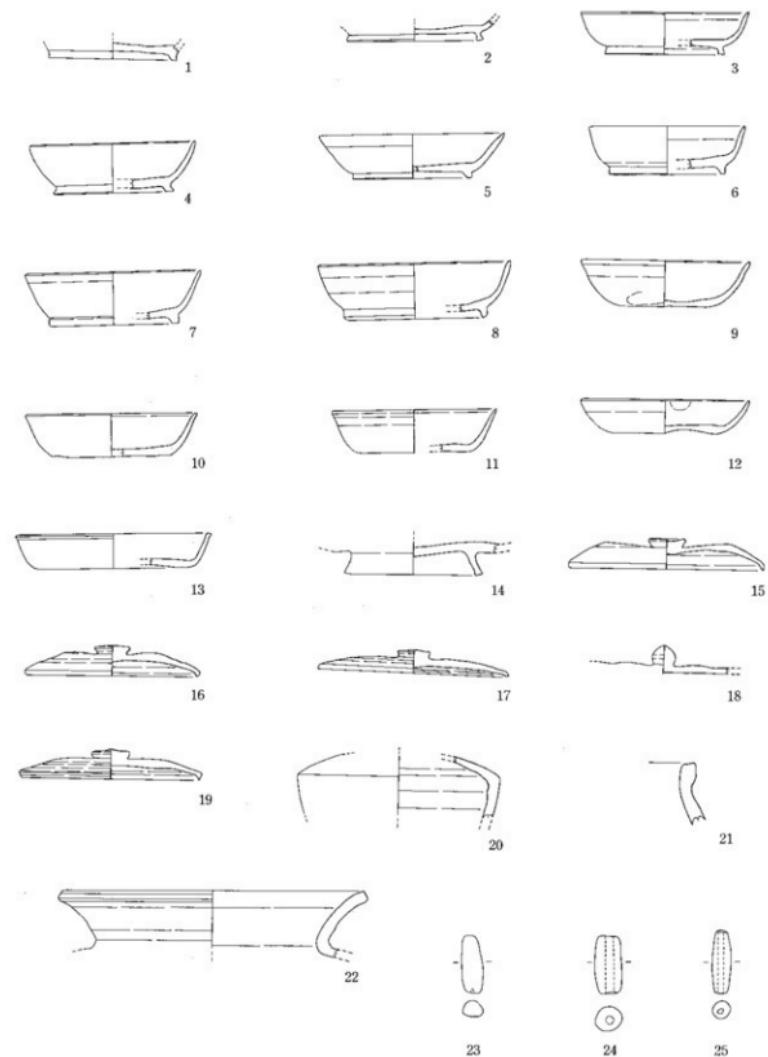


図 10 出土遺物実測図 (94-17YH)

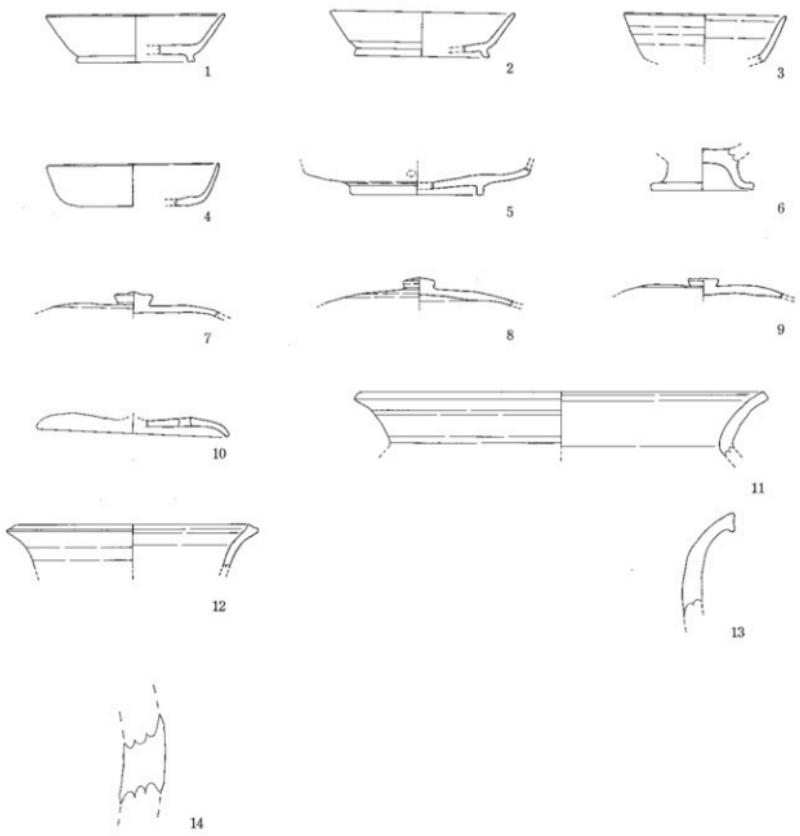


図 11 出土遺物実測図 (95-19YH)

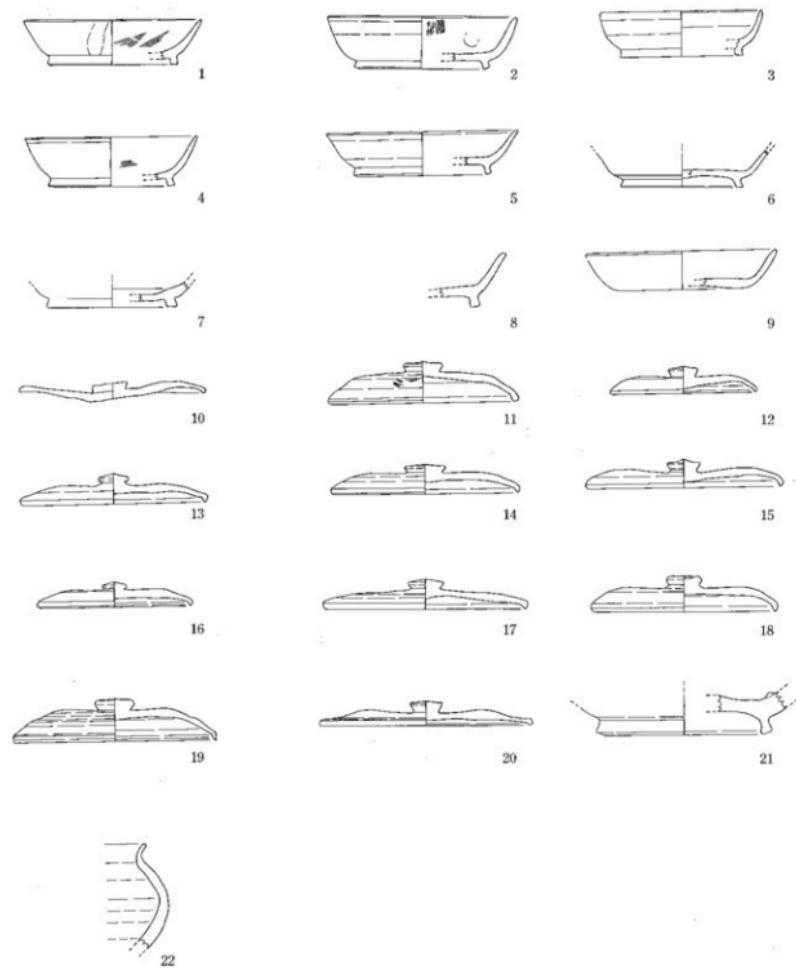


図12 出土遺物実測図 (96-19YH)

表2 遺物観察表1

実測 No.	固 No.	写真 No.	出土地点 遺物・層位	種類	器種	分類	法量(cm)			胎土	施成	色調	特徴 成形/調整/その他
							口径	高さ	底径				
1	10-1	53	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1			10.2		内面: 2.5Y5/1灰 外面: 2.5Y7/2灰黄	圓軸ナデ 内底面ナデ/高台貼り付け	
2	10-2	52	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1			10.9		内面: 2.5Y6/3灰黄 外面: 2.5Y6/3灰黄	内外面クロ横ナデ/施成みがみ 高台貼り付け	
3	10-3	10	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	13.4	3.3	9.5		内面: 2.5Y6/1灰灰 外面: 2.5Y6/1灰灰	内外面クロ横ナデ/ 高台貼り付け	
4	10-4	13	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	13.2 (推定)	4.0	9.6		内面: 2.5Y6/1灰灰 外面: 2.5Y6/3にい黄	圓軸ナデ/調整/ 内底面ナデ 高台貼り付け	
5	10-5	8	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	14.8 (推定)	3.6	9.6		内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 3.5Y6/1灰	圓軸ナデ/内底面ナデ 高台貼り付け	
6	10-6	7	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	12.5 (推定)	3.8	9.2		内面: 2.5Y6/2灰黄 外面: 10Y8T/3にい黄橙	内外面輪郭ナデ 高台貼り付け	
7	10-7	9	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	15.4 (推定)	4.5	10.8		内面: 2.5Y7/3灰黄 外面: 2.5Y6/2灰黄	内外面クロ横ナデ 高台貼り付け	
8	10-8	12	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	13.4 (推定)	4.9	7.9		内面: N6/0灰 外面: N7/0灰白	内外面クロ圓軸ナデ 高台輪郭ナデ/ ベタ底	
9	11-1	3	Ⅱ層 TR4	碗	須恵器	1	13.8	3.7	9.2		内面: 5Y6/1灰 外面: 5Y6/1灰	内外面クロ圓軸ナデ 高台貼り付け	
10	11-2	47	Ⅱ層 TR4	碗	須恵器	1	14.3	3.5	10.4		内面: 10Y7/1灰白 外面: N5/0灰	内外面クロ圓軸ナデ 高台貼り付け	
11	12-1	4	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	13.8	3.5	10.0		内面: 2.5Y6/2灰黄 外面: 5Y6/1灰	内外面クロ横ナデ 高台貼り付け	
12	12-2	2	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	14.6	4.1	9.8		内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 2.5Y7/1灰白	内外面クロ圓軸ナデ 高台貼り付け	
13	12-3	11	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	12.4	3.5	9.4		内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 2.5Y7/2灰黄	内外面輪郭クロ横ナデ 高台貼り付け	
14	12-4	12	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	13.4	3.9	9.8		内面: 7.5Y6/1灰 外面: N6/0灰	内外面クロ圓軸ナデ 高台貼り付け	
15	12-5	6	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	14.9	3.4	10.7		内面: 7.5Y5/1灰 外面: 5Y6/1灰	内外面クロ横ナデ 高台貼り付け	
16	12-6	48	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1			9.3		内面: 5Y6/1灰 外面: 5Y6/1灰	内外面クロ横ナデ 高台貼り付け/底部に×の廻り	
17	12-7	49	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1			9.9 (推定)		内面: 5Y6/1灰 外面: 7.5Y6/1灰	クロ横ナデ 高台貼り付け	
18	12-8	19	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1		4.2		石英、砂	内面: 5Y7/1灰白 外面: 7.5Y5/1灰	内外面クロ圓軸ナデ 高台貼り付け	
19	10-9	17	Ⅲ層 TR2	杯	須恵器	2	13.4	3.7	7.0		内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 5Y7/2灰白	内外面クロ横ナデ 内底面ナデ/ベタ底	
20	10-10	18	Ⅲ層 TR2	杯	須恵器	2	13.6	3.5	9.4		内面: 2.5Y8/2灰白 外面: 2.5Y8/2灰白	圓軸ナデ/内底面ナデ 圓軸ナデ/ベタ底	
21	10-11 5-2	16	不明	杯	須恵器 香爐小学校	2	13.2	3.4	8.8		内面: 2.5Y5/3灰黄 外面: 2.5Y5/3灰白	内外面輪郭ナデ 圓軸ナデ/ベタ底	
22	11-3	59	Ⅳ層 TR4	杯	須恵器	2	12.6 (推定)				内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 2.5Y7/3灰黄	内外面クロ横ナデ 圓軸ナデ/ベタ底	
23	11-4	15	Ⅳ層 TR4	杯	須恵器	2	13.2	3.3	8.6		内面: 7.5Y6/1灰 外面: 10Y6/1灰	内外面クロ横ナデ/調整 圓軸ナデ/ベタ底	
24	12-9	14	Ⅳ層 TR3	杯	須恵器	2	14.8 (推定)	3.0	9.6		内面: 10Y8T/4にい黄橙 外面: 10Y8/6にい黄橙	内外面クロ横ナデ/調整 圓軸ナデ/ベタ底	
25	10-12	20	Ⅳ層 TR2	皿	須恵器	3	13.4	2.7	8.6		内面: 2.5Y6/1灰 外面: 2.5Y6/2灰白	内外面クロ横ナデ 圓軸ナデ/ベタ底	
26	10-13	21	Ⅳ層 TR2	皿	須恵器	3	15.6	2.8	12.4		内面: 5Y6/1灰 外面: 5Y7/1灰白	内外面クロ横ナデ 圓軸ナデ/ベタ底	

表3 遺物観察表2

実測 No.	図 No.	写真 No.	出土地名 遺構・層位	種類	部種	分類	法量(cm)			鉄土	焼成	色調	特徴 成形・調理/その他
							口径	高さ	底径				
28	10-14	50	II層 TR2	盤	須恵器	4			10.9			内面: 2.5Y6/3にぶい黄 外面: 2.5Y6/3にぶい黄	外内側ナテ仕上げ
29	11-5	5	II層 TR4 (碗?)	盤	須恵器	4			10.2			内面: 5Y5/1灰 外面: 2.5Y5/1黄灰	外内面同軸ロクナテ仕上げ 焼成によるゆがみ有り
30	10-15	25	II層 TR2	蓋	須恵器	5	15.4	2.4				内面: 10Y8/3浅黄橙 外面: 10Y8/3浅黄橙	外内面ナテ仕上げ ボタン状つまみ
31	10-16 5-3	23	不明	蓋	須恵器	5	13.6	2.4				内面: 2.5Y5/1灰 外面: 2.5Y4/1灰	外内面ナテ仕上げ ボタン状つまみ
32	10-17	24	II層 TR2	蓋	須恵器	5	15.2	1.9				内面: 2.5Y6/2灰黄 外面: 2.5Y6/3にぶい黄	外内面ナテ仕上げ ボタン状つまみ
33	10-18	41	II層 TR2	蓋	須恵器	5						内面: 5Y4/1灰 外面: 5Y4/1灰	外内面ナテ仕上げ 宝珠状つまみ
34	10-19	22	II層 TR2	蓋	須恵器	5	14.2	2.4				内面: 2.5Y6/2灰黄 外面: 2.5Y6/3にぶい黄	天井押出ナテ同軸模ナデ 天井押出中央ナデ ボタン状つまみ
35	5-5	38	不明	蓋	須恵器	5	12.8	3.5				内面: 2.5Y6/2灰黄 外面: 2.5Y6/1灰	外内面ナテ同軸模ナデ 内面模ナテ/ボタン状つまみ
36	5-4	39	不明	蓋	須恵器	5	14.0					内面: N7/0灰 外面: 2.5Y4/1灰	外内面ロクロ同軸模ナデ
37	10-25	40	表面探査	蓋	須恵器	5	10.1					内面: 2.5Y7/3浅黄 外面: 2.5Y7/2灰黄	外内面ロクロ同軸模ナデ仕上げ
38	11-7	45	II層 TR4	蓋	須恵器	5						内面: 2.5Y7/1灰白 外面: 2.5Y6/1灰	外内面ヘラ、同軸模ナデ ボタン状つまみ/内面同軸模ナデ
39	11-8	44	II層 TR4	蓋	須恵器	5						内面: 5Y8/1灰白 外面: 5Y7/2灰白	外内面後ナデ/外内面ヘラ ボタン状つまみ
40	11-9	42	II層 TR4	蓋	須恵器	5						内面: 2.5Y8/2灰黄 外面: 2.5Y7/4(浅黄) 断面: 2.5Y6/2灰黄	外内面後ナデ/外内面ヘラ ボタン状つまみ
41	11-10	43	II層 TR4	蓋	須恵器	5						内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 2.5Y5/1黄灰	外内面ヘラ、横ナデ 内面同軸模ナデ/天井部に小穴あり
42	12-10		II層 TR3	蓋	須恵器	5	14.4	2.0				内面: 2.5Y6/1黄灰 外面: N5/0白	外内面ヘラ、横ナデ/ボタン状つまみ 内面同軸模ナデ
43	12-11	35	II層 TR3	蓋	須恵器	5	14.2	3.2				内面: 2.5Y6/2灰黄 外面: 2.5Y6/1黄灰	外内面ヘラ、横ナデ 内面同軸模ナデ/ボタン状つまみ
44	12-12	34	II層 TR3	蓋	須恵器	5						内面: 2.5Y5/1黄白 外面: 2.5Y6/2灰黄	外内面ヘラ、横ナデ 同軸模ナボタン状つまみ 内面同軸模ナデ/焼成ゆがみ
45	12-13	33	II層 TR4	蓋	須恵器	5	14.1	2.4				内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 2.5Y5/1黄灰	外内面ヘラ、同軸模ナデ ボタン状つまみ/内面同軸模ナデ
46	12-14	32	II層 TR3	蓋	須恵器	5	14.2	2.3				内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 2.5Y7/2灰黄	外内面ヘラ、同軸模ナデ ボタン状つまみ 内面同軸模ナデ
47	12-15	31	II層 TR3	蓋	須恵器	5	15.0	2.2				内面: 10Y7/4にぶい黄橙 外面: 2.5Y7/3灰黄 断面: 10Y7/4にぶい黄橙	外内面ヘラ、同軸模ナデ 内面同軸模ナデ/ボタン状つまみ
48	12-16	30	II層 TR3	蓋	須恵器	5	11.8	1.9				内面: 7.5Y5/1灰 外面: 5Y5/1灰 断面: 5Y6/1灰	外内面ヘラ、同軸模ナデ ボタン状つまみ/内面同軸模ナデ
49	12-17	29	II層 TR3	蓋	須恵器	5	15.6	2.3				内面: 2.5Y7/1灰 外面: 2.5Y7/2灰黄	外内面ヘラ、同軸模ナデ ボタン状つまみ/内面同軸模ナデ
50	12-18	28	II層 TR3	蓋	須恵器	5	14.0	2.7				内面: 2.5Y7/1白黄 外面: 2.5Y7/2灰黄 断面: 2.5Y7/2灰黄	外内面ヘラ、同軸模ナデ ボタン状つまみ/内面同軸模ナデ
51	12-19	27	II層 TR3	蓋	須恵器	5	15.7	3.2				内面: 2.5Y7/2灰黄 外面: 2.5Y7/2灰黄 断面: 2.5Y7/2灰黄	外内面ヘラ、同軸模ナデ ボタン状つまみ/内面同軸模ナデ
52	12-20	26	II層 TR3	蓋	須恵器	5	16.3	1.9				内面: 2.5Y7/3浅黄 外面: 2.5Y7/2灰黄 断面: 2.5Y7/2灰黄	外内面ヘラ、同軸模ナデ 内面模ナデ 解平なボタン状つまみ
54	10-20	60	II層 TR2 (瓦張器)	蓋	須恵器	6						内面: N7/0灰白 外面: 2.5Y7/1灰白	外内面ナテ仕上げ

表4 遺物観察表3

実測 No.	写真 No.	出土地点 遺物・層位	種類	分類	法量(cm)			胎土	焼成	色調	特徴 成形/焼成/その他
					口径	器高	底径				
55	12-7	49	Ⅲ層 TR3 (底部)	灰 (底部)	須恵器	6		12.3		内面: 2.5Y7/2 灰黄 外面: NS/0 灰	内外面ロクロ横ナデ 焼成ゆがみ/両台貼り付け
56	12-22	56	Ⅲ層 TR3 (底部)	灰 (底部)	須恵器	6				内面: 2.5Y6/3 にぶい黄 外面: 2.5Y6/1 黄灰	内外面ロクロ横ナデ
57	12-21	51	Ⅲ層 TR3 (底部)	灰 (底部)	須恵器	6		12.3		内面: 2.5Y7/2 灰黄 外面: NS/0 灰	底部内外ロクロ横ナデ
59	10-21	54	Ⅳ層 TR2 (底部)	灰 (底部)	須恵器	7				内面: 2.5Y7/4 淡黄 外面: 2.5Y6/2 灰黄	内外面ロクロ同軸横ナデ
60	10-22	36	Ⅳ層 TR2 (底部)	灰 (底部)	須恵器	7	24.0 (推定)			内面: 2.5Y3/1 黑褐 外面: 2.5Y5/2 暗灰黄 断面: 2.5Y5/2 暗灰黄	内外面ロクロ横ナデヘラ
61	11-11	57	Ⅳ層 TR4 (底部)	灰 (底部)	須恵器	7	31.2 (推定)			内面: 2.5Y6/2 淡黄 外面: 2.5Y6/2 淡黄 断面: 2.5Y6/2 淡黄	内面横ナデ/外面口縁部横ナデ 口縁部凹ハケによるタナナデ
62	11-12	58	Ⅳ層 TR4 (底部)	灰 (底部)	須恵器	7	18.0			内面: N4/0 灰 外面: N4/0 灰	内外面ヘラ、同軸横ナデ
63	11-13	55	Ⅳ層 TR4 (底部)	灰 (底部)	須恵器	7				内面: 5Y6/2 灰オリーブ 外面: 5Y6/1 灰 断面: 2.5Y7/2 灰黄	横ナデ 内外面横ナデ
64	11-6	46	Ⅳ層 TR4	高杯	須恵器	8		3.9		内面: 5Y7/1 灰白 外面: 2.5Y7/2 灰黄	外面ヘラ、横ナデ 内面同軸横ナデ
65	11-14	61	Ⅳ層 TR4	平足	布目瓦	9				内面: NS/0 灰 外面: N4/0 灰 断面: NS/0 灰	焼成によるゆがみ
66	10-23	63	Ⅳ層 TR2	土師		10	全長4.7			外面: 2.5Y7/2 灰黄	
67	10-24	62	Ⅳ層 TR2	土師		10	全長4.7			外面: N6/0 灰	
68	10-25	64	Ⅳ層 TR2	土師		10	全長4.7	1.5	-	外面: 5Y6/1 灰	
69	9-1	26	不明	杯	須恵器 香持小学校	11	4.0	3.4		内面: 10Y6/1 灰 外面: 10Y6/1 灰	内外面同軸ロクロ横ナデ調査

第Ⅳ章 総括

林ノ谷窯跡群について

1号窯跡は全長約8m、断面では最大で約2m、焚き口は最大約2.3mを測る。天井部分、煙出し部分は破壊されており不明である。窯跡の全体形状は舟底状を呈し、半地下式登窯である。窯壁はワラを混ぜて手で撫せて形成された後、焼成により構築されている。

窯跡部より実測できる遺物は出土していないが焚口南側下段の灰捨場より多量の炭、須恵器が出土していた。

2号窯跡は全長約9m、断面の最大は約2m、焚口は最大2.2mである。天井部、煙出し部分は破壊され現存しない。窯跡の全体形状は舟底状で窯の構造は半地下式登窯である。窯壁はワラと粘土を混ぜて形成し、焼成により構築されている。灰捨場は焚口南側の下段に所在し大量の炭、須恵器片が出土した。窯の底部から2から3回程度の修復がみられる。

3号窯跡は全長約9m、断面の最大は約1.9m、焚口は最大約2mである。天井部、煙出し部分はすべて破壊されている。窯の構造は半地下式登窯で窯壁はワラと粘土を混ぜて構築、焼成されている。窯跡からの出土遺物は無く焚口南側に広がる灰捨場から炭、須恵器が出土している。窯は2回ないし3回の修復がなされている。

本調査により3基よりなる林谷窯跡群はその出土遺物から從来推定されていた年代である7世紀後半と8世紀末の2時期にではなく窯業としての操業は8世紀後半の時期であり、その操業期間も短期間の窯業生産操業であったと推定される。

須江古窯跡群について

現在までに須江、新改、植、入野、大法寺地区に分布する須江窯跡群については発掘調査により調査された窯跡は西谷1号・2号窯跡、東谷1号・2号・3号窯跡（松本窯跡）、小山田窯跡群の灰捨場（二次堆積）であり今回の林谷窯跡の3基を含めてもごく僅かである。須江古窯跡群の現在確認されている遺物からは7世紀末（小山田窯跡灰捨場・植タンガン窯跡）を上限として下限は11世紀須（大谷窯跡）までの遺物が発見されている。現在までに窯跡群の窯の構造及び主流生産は須恵器が専用であり、瓦窯専用の窯跡は確認されていない。高知県内の古墳から出土する副葬品のうち、須恵器を見る限り高知県内において6世紀初めの窯跡が存在するはずであるが現在のところ発見されていない。土佐山田町に所在する古墳から伏原大塚古墳（方墳）周濠より出土した須恵質の円筒埴輪の出土例から本古墳近辺には6世紀代の窯跡の存在が予想される。

高知県内最大の窯跡群である須江古窯跡群の全体像は不明であるが土佐における律令制の成立と土佐国内での古代寺院の建立と古代豪族の様相など窯業生産から少なからずも土佐の古代史の研究上欠かすことの出来ない遺跡であり今後の調査活用が期待される。



図 13 土佐山田町古代窯跡分布図 1

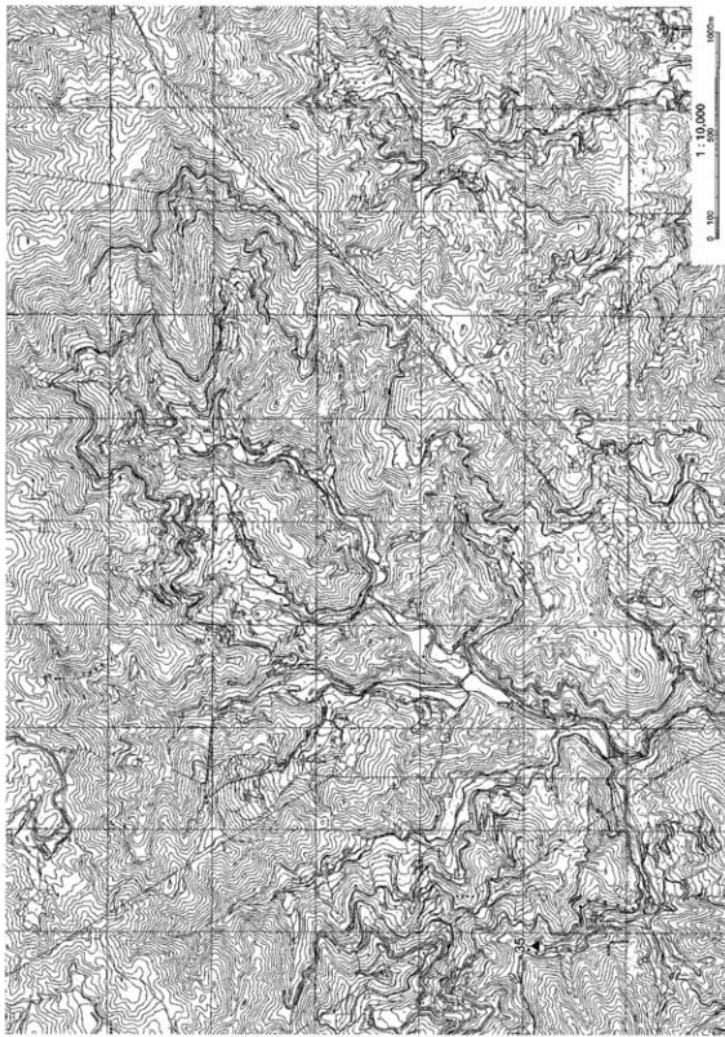


図 14 土佐山田町古代窯跡分布図 2

表5 土佐山田町の古窯跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	立場	構造	出土品	文献
1	源江窯跡	土佐山田町龍ノ木ヶ内	植生Mm程度の水田立ち	不明	不明	【土佐山田町史】考古編P130
2	神吉窯跡群 (神谷1分窯跡)	土佐山田町新改字ノ谷338	植生Mm程度の水田立ち	半地下式、壁出し	磁器器	岡本健次「高知県考古叢書」1968、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130、栗山典夫「古代の窯跡群」考古編P130、栗山典夫「古代の窯跡群」
3	林谷窯跡群 (林谷2分窯跡)	土佐山田町新改字ノ谷538		半地下式、壁出し	陶器器	岡本健次「高知県考古叢書」1968、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130、栗山典夫「古代の窯跡群」
4	林谷窯跡群 (林谷3分窯跡)	土佐山田町新改字ノ谷338		半地下式、壁出し	陶器器、布瓦瓦、土罐	岡本健次「高知県考古叢書」1968、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130、栗山典夫「古代の窯跡群」
5	寛豊窯跡群 (寛豊1分窯跡)	土佐山田町新改字東93	山の中腹に立地	半地下式、壁出し	磁器器(灰・墨・褐)	栗山典夫「高知県考古叢書行家窯跡群の発掘」1978、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130
6	東谷窯跡群 (東谷2分窯跡)	土佐山田町新改字東93	山の中腹に立地	半地下式、壁出し	瓦片丸瓦<板瓦黒葉文背瓦>、灰瓦(瓦口瓦)、鰐口瓦、丸瓦(瓦脚瓦)	栗田典夫「高知県考古叢書行家窯跡群の発掘」1978、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130
7	東谷3分窯跡群	土佐山田町新改字東93	山の中腹に立地	半地下式、有煙窓	磁器器(墨・灰・灰・墨・白)	栗田典夫「高知県考古叢書行家窯跡群の発掘」1978、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130
8	西谷窯跡群 (西谷1分窯跡)	土佐山田町新改字西谷	山麓	半地下式、壁出し	磁器器(灰・墨・白・灰・墨)	栗田典夫「土佐における昇殿時代の陶工・瓦工社の発見」『土佐史談』5号、1977、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130
9	西谷窯跡群 (西谷1分窯跡)	土佐山田町新改字西谷	山麓			
10	西内窯跡	土佐山田町新改字西ノ内	山麓	不明	磁器器(灰・墨)	
11	二戸山川窯跡	土佐山田町新改字三反山田	山麓	窑窓(瓦基)	不明	尾内惣輔「土佐における昇殿時代の陶工・瓦工社の発見」『土佐史談』5号、1977、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130
12	入野南ノ丸窯跡	土佐山田町人野字国ノ丸	山の中腹に立地	不明	磁器器(墨・灰・灰・瓦・瓦・墨)	栗田典夫「土佐山田町史」考古編P130
13	人野1号窯跡 (大法寺1号窯跡)	土佐山田町大法寺字奥山田	山麓	磁器器(墨・杯・盤・高杯・瓶・盒・更)	栗田典夫「土佐山田町史」考古編P130	
14	人野52号窯跡	土佐山田町大法寺字ノ谷		磁器器(灰・墨・灰)		
15	人野53号窯跡	土佐山田町大法寺字ヤゲ		磁器器(墨)		
16	大法寺ヤシキダ1号窯跡	土佐山田町大法寺字ヤシキダ		磁器器(墨・灰・灰・灰)	栗田典夫「土佐における昇殿時代の陶工・瓦工社の発見」『土佐史談』5号、1977、黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130	
17	大法寺ヤシキダ2号窯跡	土佐山田町大法寺字ヤシキダ		磁器器(墨・灰・灰)		
18	大法寺下モソダ2号窯跡	土佐山田町大法寺字下モソダ		磁器器(墨)		
19	大法寺2号窯跡 (大法寺2号窯跡)	土佐山田町大法寺字二田		磁器器(墨・灰・灰・灰・灰・灰)	黒田典夫「土佐の窯跡群」四国考古学叢書2 1991	
20	大法寺ヘニスヤジ1号窯跡	土佐山田町大法寺字ヘニスヤジ				
21	大法寺ヘニスヤジ2号窯跡	土佐山田町大法寺字ヘニ		磁器器(灰・墨・灰・灰)		
22	入野谷1号窯跡	土佐山田町入野字大森1030-1他		磁器器		
23	人野町ノ谷1号窯跡 (人野窯跡)	土佐山田町人野字大森1025-8		磁器器(墨・灰・灰・瓦耳瓶)	黒田典夫「土佐山田町史」考古編P130	
24	桂セガイ窯跡	土佐山田町桂セガイ506-1他		磁器器(墨)		
25	桂タンゴン1号窯跡	土佐山田町桂字桂タンゴン1119-2他				
26	桂タンゴン2号窯跡	土佐山田町桂字桂タンゴン1119-2他				
27	新北大谷1号窯跡	土佐山田町新改字大谷903				
28	新北大谷2号窯跡	土佐山田町新改字大谷903				
29	新北大谷3号窯跡	土佐山田町新改字大谷903				
30	新北小山田1号窯跡	土佐山田町新改字小山田484				
31	新北小山田2号窯跡	土佐山田町新改字小山田484		磁器器(墨・杯・盘)		
32	新北小山田3号窯跡	土佐山田町新改字小山田484		磁器器(墨・杯・盘)		
33	新改八ノ谷窯跡	土佐山田町新改字八ノ谷1065-1他				
34	入野トヨモチ窯跡	土佐山田町入野字モモチ706		磁器器	【四国歴史合集】高知市文化財調査報告書P130	高知市文化財調査報告書P130(1977)
35	白山カタナギ窯跡	土佐山田町白山字山田カタナギ		磁器器		【四国歴史合集】高知市文化財調査報告書P130(1977)
36	子母舟跡	土佐山田町子母舟				
37	長谷川1号窯跡	土佐山田町子母舟長谷川909	山麓	磁器器		
38	長谷川2号窯跡	土佐山田町子母舟長谷川909	山麓	窑窓(瓦) 布瓦瓦(平瓦・瓦瓦・瓦瓦)		
39	山本吉川窯跡	土佐山田町加茂字山本吉川968		布瓦瓦(平瓦・瓦瓦・瓦瓦)		【加茂ハイタクが壠跡】土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第28集、2000

写 真 図 版



遺跡遠景



右より 2・3号窯跡



1号窯跡



2号窯跡



3号窯跡



1号窯跡完掘状況



1号窯跡完掘状況



1号窯跡煙出し部分

遺構 2



1号窯跡煙出し部分



1号窯跡側壁部分



1号窯跡側壁部分



1号窯跡側壁部分



1号窯跡焚口部分



1号窯跡焚口と TR-2



TR-1



TR-2



3号窯跡完掘状況



3号窯跡完掘状況



3号窯跡底部トレンチ



3号窯跡煙出し部分



3号窯跡側壁部分



3号窯跡底部トレンチ



2号窯跡完掘状況



2号窯跡完掘状況



2号窯跡煙出し部分



2号窯跡底部トレンチ

遺構 4



灰捨場



右 TR-3 左 TR-4



TR-4 セクション



TR-3 セクション



TR-4 セクション



窯跡埋戻し作業



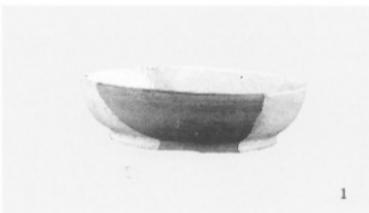
1号窯跡埋戻し



2号窯跡埋戻し



3号窯跡埋戻し



1



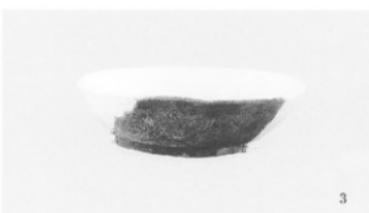
6



2



7



3



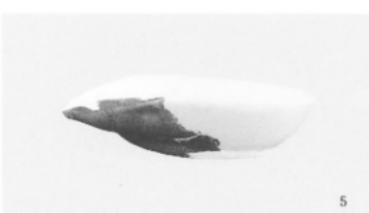
8



4



9

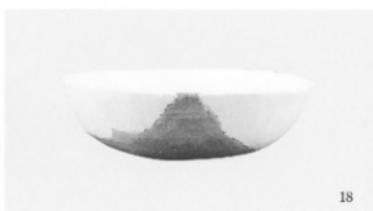
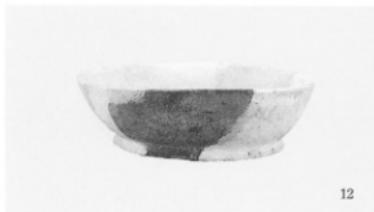
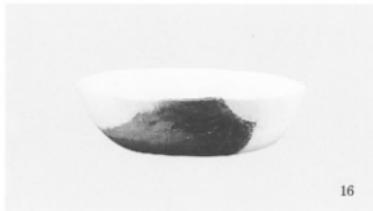


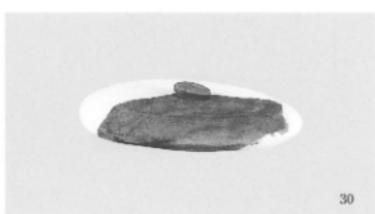
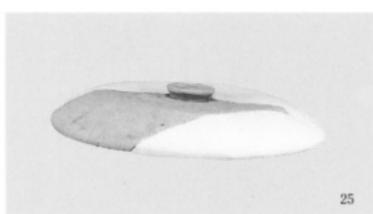
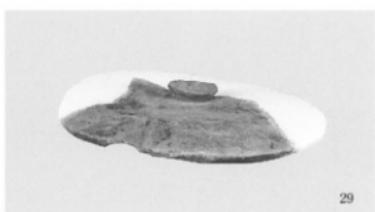
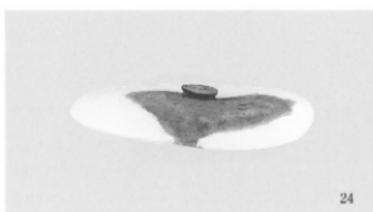
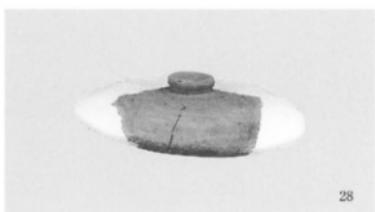
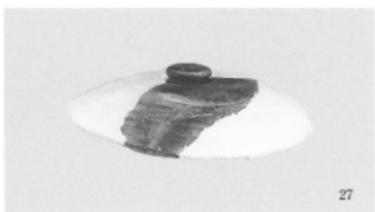
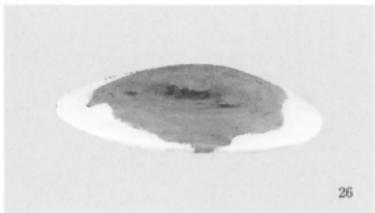
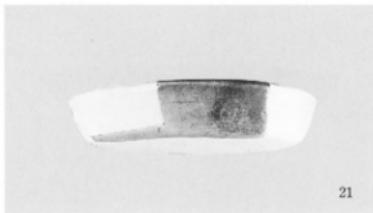
5



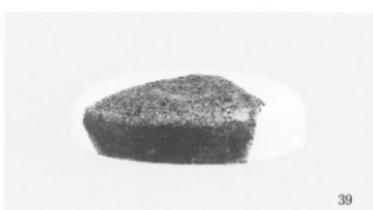
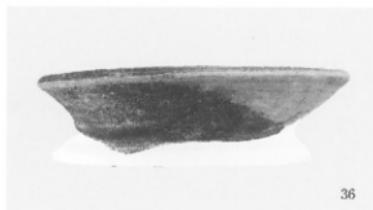
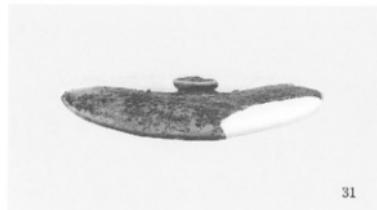
10

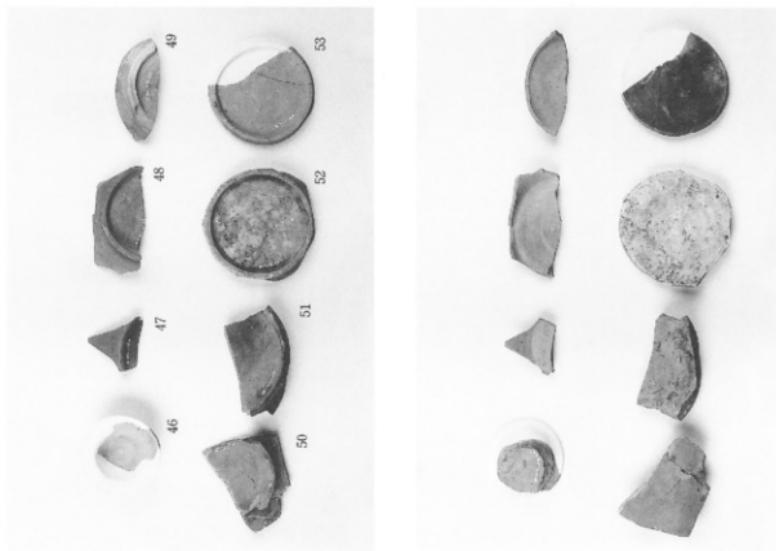
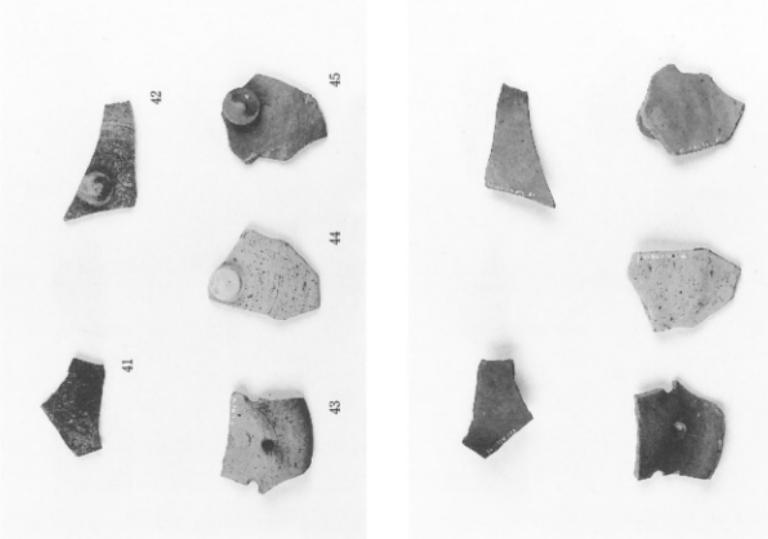
遺物 2



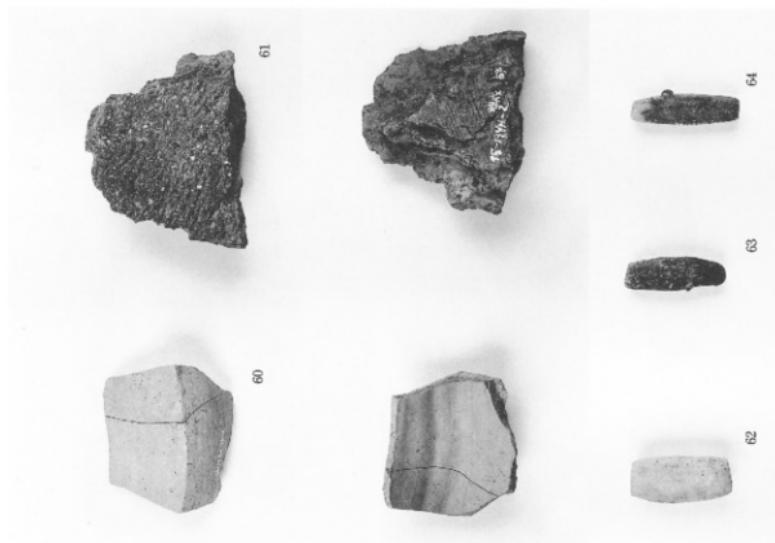
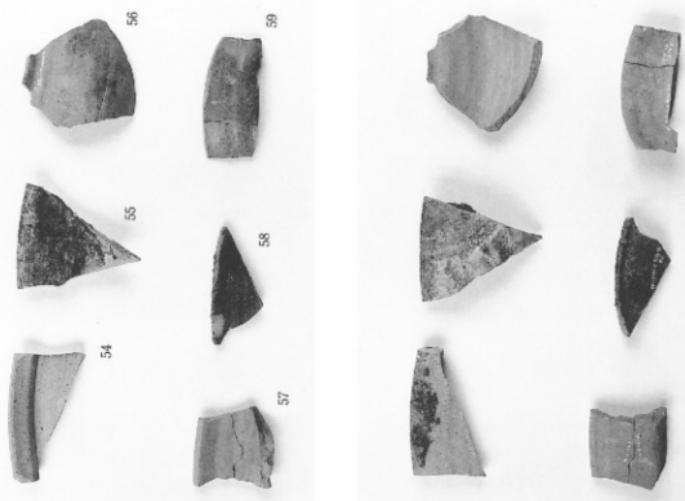


遺物 4





遺物 6



報告書抄録

ふりがな	はやし の たに こ よう あと						
書名	林ノ谷古窯跡						
副書名	自然崩壊に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第21集						
編著者名	中山泰弘						
編集機関	土佐山田町教育委員会						
所在地	〒782-0017 高知県香美郡土佐山田町岩積365-1						
発行年月日	西暦2003年6月30日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積	調査原因
はやし の たに 林ノ谷 こ よう あと 古窯跡	こうちけん かみみどり 高知県香美郡 とさのまち くわらや 土佐山田町 しもだまち 新改 あらめし の たに 字林ノ谷338	393231 190051 190052 190053	33° 190052 37° 190053 48°	133° 40° 90°	1号窯跡： 平成6年 7月14日 ～9月16日 第3号窯跡： 平成7年 7月14日 ～9月13日 第3号窯跡： 平成8年 7月29日～ 8月27日	165m ²	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
林ノ谷古窯跡 (林ノ谷1号窯跡 林ノ谷2号窯跡 林ノ谷3号窯跡)	窯跡	古代	半地下式登窯	須恵器			

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第21集

林ノ谷古窯跡

2003.6

発行 土佐山田町教育委員会
高知県香美郡土佐山田町岩積365-1
TEL 0887-53-3111(代)
印刷 西村謄写堂